



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

イスラエル・パレスチナ：パレスチナ人少年の拉致・殺害事件

7月2日、イスラエル警察は、東エルサレムでパレスチナ人少年（16歳）の遺体を発見した。同少年は、朝、東エルサレム（ベイト・ハニーナ）で拉致されたと見られており、拉致される映像が、監視カメラで撮影されている。また遺体は焼かれていたとの情報もある。イスラエル警察は、3日に遺体の検死を行った。

少年殺害が明らかになった直後、少年の住む地区の住民などが警察と衝突した。パレスチナ側の報道では、2日のパレスチナ人の負傷者は170人。衝突は3日にも発生した。

2日、パレスチナ自治政府のアッバース大統領は、パレスチナ人少年の殺害についてユダヤ過激派の仕業であるとして、イスラエルに犯人の処罰を要求した。3日、ネタニヤフ首相は、パレスチナ人少年の殺害を非難し、犯人に法の裁き下すとした。また同首相は、イスラエル国民に、先に発生した入植者少年3人の殺害の報復行動をしないよう自制を求めた。同日、ペレス大統領は、イスラエル人とパレスチナ人の双方に自制を求めた。

2日、米国のオバマ大統領は、同事件を非難した。安保理も非難声明を出している。米国のケリー国務長官は、同殺害事件についてネタニヤフ首相と電話で会談している。

評価

入植者少年3人の葬儀が行われた直後に、東エルサレムでパレスチナ人少年の拉致・殺害事件が起きた。イスラエル警察は犯人をまだ特定しておらず、一般犯罪かもしれないが過激派の入植者あるいはイスラエル極右の報復行動の可能性もある。当面は、警察の捜査の進展を待つしかない。

イスラエルは、入植者少年殺害への対応策を協議している最中に、パレスチナ人少年殺害事件が起きたため、具体的な対応措置はまだ打ち出していない。ガザからのイスラエルの南部攻撃とイスラエル軍の報復空爆の連鎖が続いているが、7月4日、BBCは、パレスチナ筋の話として、イスラエルもガザのハマースも事態の沈静化を望んでおり、停戦合意が近いと報道した。

（中島主席研究員）

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799